

「事業協同組合」設立に向け 中小介護事業者が集結

東京都豊島区では同区内の中小介護事業者でつくる「事業協同組合」の設立に向け、準備を進めている。協同組合設立支援事業として開講した「『事業協同組合』設立をめざす介護経営者の勉強会」の様子を5回にわたりレポートする。



東京都豊島区が実施する中小介護事業者事業協同組合の設立支援事業として、2018年11月28日、「事業協同組合」設立をめざす介護経営者の勉強会（通称・豊島区介護事業経営カレッジ）（企画・運営・株式会社日本医療企画、全5回）が開講した。

介護業界では、「効果的な職員採用ができない」「職員が少ないので研修が困難」「利用者確保のPRができない」などの悩みを抱える介護事業者が多く、特に事業規模の小さい事業者ほど課題は深刻になっている。そこで同区では、合併や経営統合などで得られる規模の経済効果を狙い、協同組合の設立をめざしている。

同カレッジでは、協同組合への参画を検討する介護事業者に向けて、経営知識の向上を図るとともに、事業協同化の目的や効果の周



豊島区保健福祉部長の常松洋介さん

知を図る。

第1回は、株式会社ウエルビー代表取締役の青木正人さんを講師に、「マネジメントと事業経営」をテーマに経営の基礎について講義を行った。同区内の居宅介護支援事業者、通所介護事業者、訪問介護事業者ら16人が参加した。

開講に先立ち、豊島区保健福祉部長の常松洋介さんが「地域内の事業者が集まる場として交流も兼ねていただければ」と挨拶した。

同カレッジは2部制で行われ、第1部では青木さんがマネジメントについてその意味や具体的な取り組み方を説明。マネジメントには、経営と管理の2つの側面があり、管理は「今日の業務を遂行すること」、経営は「明日の姿を思い描くこと」が目的で、経営者には双方の視点が必要だと示した。さらに、マネジメントの役割には、



株式会社ウエルビー代表取締役の青木正人さん

①事業を定義する、②目標を設定する、③人を動かす——の3つがあり、そのために現状の経営分析が重要だとし、SWOT分析について説明した。

第2部では、4人ずつ4グループに分かれ、SWOT分析を用いて実際に現状の経営について話し合った。内部環境を強み・弱みに、外部環境を機会・脅威にそれぞれ分類したところ、参加者からは、「責任の重さから職員が疲弊している」「研修できる人がいない」などの内部環境の弱みや、「3Kのイメージが強い」「通所介護の加算減」などの外部環境の脅威が多く挙げられた。

これに対し青木さんは、「強みか弱みかは見方によって変わる。まず、弱みなのか強みなのかを分析することが重要」と強調した。さらに、「自分の強みを認識することは難しいが、ほかの介護事業者と話し合うことが認識をあらためるきっかけにもなる。協同組合の設立にはそうした効果もある」と述べ、協同組合の設立に向けてあらためて期待を示した。

第2回は、事業協同組合の活用方法について学ぶ。